

第1学年 国語科学習指導案

令和元年10月4日(金)2校時

1年教室 高橋 由紀子

1 単元名 おはなしをよもう 「サラダでげんき」

2 単元の目標

誰がどんなことをしたかを考えて場面ごとに読み、人物に伝えたいことを手紙に書くことができる。

3 学級の実態

本学級の児童は、QUテストの結果から、学校生活への満足度が高く「まとまりのある集団」と言える。授業に取り組むルールも1年生なりに確立されていて、指示を聞いてスムーズに活動を進めることができる。個人差はみられるものの、安心して自己表現をすることができるので、授業中の発言は多く、考えを交流する学び合いができるように育ってきている。既習の「おおきなかぶ」「かいがら」を通し、場面の様子や人物の気持ちを想像しながら読む力が育ってきている。また、読み聞かせなど本に親しむ機会を多く設けてきたことで、読書に対する関心も高まってきている。

4 学習指導計画（総時数13時間）

次	時数	主な学習計画
一	1・2	1 学習の見通しを立てる。 2 動物たちがしたことを読み取り、手紙を書くという学習課題を確かめる。
二	3～9	3 出てきた動物に気をつけて場面ごとに読む。
三	10～13 (本時 10/13)	4 りっちゃんに伝えたいことを手紙に書く。(本時) 5 単元の学習をふり返る

5 研究主題を受けて

(1)つけたい力

- 誰がどんなことをしたのかを考えて、場面ごとに読む力

(2)主体的・対話的・深い学びの実現に向けて

- 主体的な学びのために
登場する動物たちは、りっちゃんにどんなことを教えたのか、なぜそれを教えたのか、サイドライン引いたりノートに書き写したりしながら読み取らせ、自分ならどんなことを教えるのか想像させて、主体的な読みにつなげる。
- 対話的な学びのために
単元を通して、ペアや全体で交流を深める形式の授業を進めることで、「入れるの」「たべるとどうなるか」を正しく読み取り、自分が書く手紙にも生かせるようにする。
- 深い学びのために
「病気のお母さんを元気にするためのサラダ」を作るりっちゃんに手紙を書くという目的意識を持った読みにつなげるため、単元の導入で登場する動物をノートに貼り、場面をおさえることで、深く読み進められるようにする。

6 本時の目標と評価

【目標】 動物たちが教えたことから共通点をとらえ、りっちゃんに手紙で伝えたいことを考える。

[読むこと]

【評価】 動物たちが教えてくれたことを振り返り、自分がりっちゃんに伝えたいことを考えている。

[発言・ノート]

7 本時の研究の視点と手立て

視点1 主体的に学ぶための『学びのプラン』

- 主人公に宛てた手紙を書くという言語活動につなげる学習展開の工夫

前時までの学習を、表(資料①)を使って振り返ったり、教材文を音読したりすることで、動物たちの「入れるもの」「食べるとどうなるか」を確認し、自分のアドバイスを生かせるようにする。

視点2 対話的に学ぶための『学びのスタイル』

- 考えの根拠を確かなものにするための交流の場の設定

読み取った内容を生かしながら考えたりっちゃんへのアドバイスを、「食べるとどうなるか」について交流し、自分の考えを確かなものにすると同時に、考えの違いに気づかせる。

視点3 深い学びのための『学びのコーディネート』

- 読みの力を生かし、考えを導き出し深めるための発問と展開の工夫

単元を通して、「入れるもの」「食べるとどうなるか」に着目させる発問を投げかけ、同じパターンで授業を展開することで、着眼点を明確にしながら読み取り、本時の課題解決にも繋げられると考える。動物たちの場面の読みを生かし、豊かな発想で自分の考えを導き出させたい。